六年間福祉を考えて

石田小学校
六年一組　佐藤　朋幸

ぼくが小学校に入学して、初めて真剣に考えた作文が「福祉」についてでした。そこから関心を持ち、毎年色々な視点でこのテーマに取り組んで来て、六年生という一つの区切りで、自分なりに考えたことをここに書きたいと思います。

先ず福祉とは、「困り事の有る人を助ける事」、「助け合いの心」です。しかしこの素晴らしい気持ちも、かけ間違いの一つで上手くいかないのです。

例として、乗り物で良かれと思って席をずっ て断わられてしまう。自杖の方に触れてしまい嫌な思いをさせてしまう。車イスの方を助けようとして時間がかかり、周りの人に嫌な顔をされ、結果車イスの方も嫌な気持ちにさせてしまう。あげたら切りがありません

が、この不快な気持ちが私たちの「福祉」へ

の気持ちにブレーキをかけてしまうのではないのでしょうか。本当は沢山の人が少しでも「福祉」に参加出来ればと思っているはずです。

もしも学校で、白杖の方やヘルプマークを付けている方等へのマナーを学ぶ時間が有れば。もしも学校で、車イスの扱い方を学ぶ時間が有れば。もしも「福祉」に関する分かり易い本が、いつでも手に取れる所に有れば。そしてもしもヘルプマークが誰にでも分かり易いものならば。もしも何の助けが有れば良いのか分かる様なものが有れば。

沢山の「もしも」が叶えば、もっと心の通った「福祉」になるかもしれません。

ぼくは、この先も今の気持ちを忘れず、将来この「もしも」を変えられる手助けが出来る仕事が出来れば良いなと思います。

「福祉」に関わる全ての人の心が、気持ちの良い未来になる事を願って。